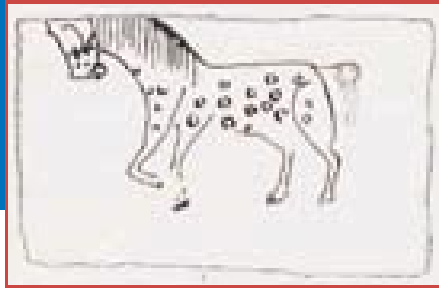




秋田城跡東門。
絵馬に込める願いは
今も昔も変わらず...

秋田城跡から発掘された中世の
絵馬を書き写した図



強い絆 深い縁

今年の干支は「午^{うま}」。

馬と人との付き合いには長い歴史があります。

農作業で働く馬、重い荷物を運ぶ馬…。おだやかで
人なつこい性格は私たちも見習うべき、かな？

馬は大事な家族の一員

東北・関東地方は古くから馬の
産地として有名でした。出羽の国
と呼ばれた秋田県も中世の頃から
屈指の馬産地として全国に名が知
られていました。

八世紀半ば頃、高清水丘陵に築
かれ国府が置かれた秋田城。平成
二年の発掘調査で、祭祀に使われ
ていたとされる当時の絵馬が出土
しました。奈良・平安時代の秋田
の人たちは、どんな願いを絵馬に
こめて奉納していたのでしょうか。

また、田畑の農作業でも、今の
ように機械が普及する前は、馬の
力は欠かせませんでした。米の国
秋田の農業の発展にも大きく貢献
してくれたのです。農家では、馬
は家族の一員のように飼われ、玄
関を入るとすぐの場所に馬屋が設
けられました。馬屋は日当たり・
風通しのよい方向に作られ、馬が

とても大切にされていたことがわ
かります。馬屋入口の柱には神棚
を置き、馬屋神と呼ばれる守護神
を祭る風習もありました。

また、馬の守護神として、広く信
仰されたものに、馬頭観音がありま
す。馬の頭を頭上に頂いた観世音菩
薩で、それにまつわる碑や塔など
が、今も市内に残されています。

相手への気づかいを大切に

今はもう、馬が農作業を手伝う
光景を目にする機会がなくなりま
したが、童つ子の雪まつりの馬そ
りなどのイベントで馬と触れ合う
ことができます。

馬は記憶力が良く、一度覚えた
ことはなかなか忘れません。親し
みをこめて愛情第一で接するのが
一番だそうです。馬も人も同じな
んですね。午年の今年、「相手へ
の気づかい」、これを一年の目標
にしてみるのもいかがでしょうか。



仁井田の馬頭観音



上北手の馬頭観音像
(頭部に馬の顔が)



上新城の馬頭観音